

平成18年度 公営企業局 事業概要

【総括】

総収入が40億5,102万3,322円（前年度比93.3%）
総費用が41億1,121万3,774円（前年度比97.5%）で、
6,319万452円（前年度比51.4%）の損失を生じた。

建設改良については、大島病院新築工事（H18～H21）さざなみ苑の30床増床工事（H17～H18）を行い、また医療機器を購入した。

	総収益（千円）	総費用（千円）	
東和病院	15億721万	15億3,510万8	東和病院では、131病床に対し、88.3%の利用率で0.05%の増。外来は、年間64,390人で、10,279人の増。 橘病院では、36病床に対し、94.95%の利用率で1.09%の減。外来は、年間40,550人で、3,473人の増。 大島病院では、99病床に対し、72.23%の利用率で12.35%の減。外来は、年間37,671人で、4,888人の増。 やすらぎ苑では、入所定員50人に対し、利用率は97.72%で、0.76%の減。 さざなみ苑では、入所定員80人に対し、利用率は、76.56%で20.56%の減。 看護学校では、定員105人に対し、学生数は117人。昨年度は卒業生は39人（就職37人（東和3人・橘1人）・進学1人・その他1人）
橘病院	6億1,648万7	6億3,241万3	
大島病院	9億7,989万5	9億6,425万4	
やすらぎ苑	2億1,561万5	2億2,955万1	
さざなみ苑	2億6,405万2	2億7,918万8	
看護学校	2億4,296万2	2億385万8	
健康管理センター（東和）	320万8	1,353万	
健康管理センター（橘）	405万2	1,291万1	
健康管理室（大島）	1,258万6	1,613万2	
訪問看護ステーション（たちばな）	2,339万7	1,989万9	
居宅介護支援事業所（とうわ）	894万2	664万5	
居宅介護支援事業所（たちばな）	625万2	823万7	
居宅介護支援事業所（おおしま）	667万1	676万	
居宅介護支援事業所（やすらぎ）	477万7	547万1	
検診事業	962万6	2,000万7	
総務部	1億4,529万1	1億5,725万〇	
計	40億5,102万3	41億1,121万4	

監査委員よりの決算審査の結果・総評

【審査の結果】

審査に付された一般会計、特別会計及び公営企業会計の歳入歳出決算書などは、いずれも関係法令に準拠して作成されており、決算計数は正確であり、執行は概ね適正なものと認められた。

【決算総評】

行政サービスの向上に、不断の努力を！

平成18年度の財政分析指標は、昨年に比べ改善されつつあるものの、依然高い数値を示しており、非常に厳しい財政状況となっている。

一般会計及び特別会計では、このような状況に対処するために、歳入面においては、自主財源確保のため町税、使用料の滞納者に不公平さを訴え町民の意識改革を行い、今後とも収納体制の点検や債権管理の徹底を図るなど未収金の回収に一層努力されたい。また、町有財産の整理見直しをし、収入の確保に努められたい。一方歳出面では、委託料の見直し等経常的な経費の縮減、補助金の必要性・効果等の精査及び財政効果

代表監査委員 末満良勇

につながる公の施設の指定管理者への移行の推進を図られたい。

合併後2年と数ヶ月経過しますが、旧町からの引き継ぎの大型事業も大半が完了する中で、これからの財政運営については経営感覚がより必要になることから、危機意識と改革意欲を持って、町民の理解と協力を得ながら、行政サービスや受益者負担のあり方を見直すことで、持続可能な財政構造への取組みや徹底した行財政改革を行い、将来の公債費負担に十分配慮した上で事業の優先順位を決定することにより、将来にわたっての健全な財政運営を図り、総合計画の基本構想に掲げている「元気・にこにこ・安心で21世紀にはばたく先進の島」の実現に向け、不断の努力を望むものであります。

公営企業会計（病院事業）においては、診療報酬改正等の医療費抑制策に伴い、へき地において医療や介護を提供することは大変厳しい状況ではあるが、経営の効率化に励み、赤字の改善を図られたい。